

東大和ライフスタイルラボ
東大和市 × 東京大学未来ビジョン研究センター

取組概要

東大和ライフスタイルラボは、東大和市、東京大学未来ビジョン研究センター、企業、市民が連携し、困りごとやあったらいいなと考えることについて、まちの主役である市民が、主体的に健康なライフスタイルを送るためのノウハウを共有したり、サービスやモノをつくりだすことを目的としたリビングラボである。



市民の意見を取り入れ、東大和ライフスタイルラボのロゴを作成した。



東大和ライフスタイルラボの連携関係

基本情報

| | |
|------------|---|
| 代表地方公共団体 | 東大和市 |
| 代表民間団体 | 東京大学未来ビジョン研究センター |
| 他の連携団体等 | 一般社団法人未来社会共創センター、株式会社メタジェン、株式会社ニッポン、エコスグループ |
| カテゴリ | 保健・衛生／健康増進 |
| 事業費 | |
| めざすSDGsゴール | |
| 事業化までの期間 | |

取組内容



ワークショップ中の様子



ワークショップ中の様子

| | |
|-------------|--|
| この取組で解決した課題 | 令和元年度に実施したアンケートを通じて、東大和市の子育て中の母親には腸内環境改善のニーズがあることがわかったため、「快腸」をテーマとした。産官学民のノウハウを共有したり、アイデアをまとめることにより、腸内環境改善の一因ともなる食物繊維摂取量の増加などライフスタイルの変化により解決を図った。 |
| 解決に向けた手法 | 東大和市ライフスタイルラボは、東大和市、東京大学未来ビジョン研究センター、未来社会共創センターが新しいライフスタイルと健康づくりの創生を目的に、2019年に締結した連携協定に基づき取り組んでいるものであり、産官学民が連携して様々な解決方法を見つけるオープンイノベーションの手法である「リビングラボ」を取り入れ、市民が主体的に健康なライフスタイルを送るためのノウハウを共有したり、サービスやモノをつくりだすためのプロジェクトである。産官学民のノウハウを共有や、グループ内でのアイデア収集、腸内環境検査、野菜摂取量の確認などをワークショップ内で行い、腸内環境改善の一因ともなる食物繊維摂取量の増加などライフスタイルの変化により解決を図った。 |

取組詳細

| | |
|----------------|---|
| 事業推進上の各団体の役割分担 | |
| 地域関係者との連携方法 | 子育て中の母親に対し「快腸」や「家族の健康」を目標に、産官学民での新しい取り組みをアピールして巻き込んだ。 市内スーパーには、普段買い物に訪れることの多い母親の声をスーパーの目につくところに掲示してもらうことで、東大和ライフスタイルラボ内での意見をまちに還元する目的で、協力を募った。 |
| 資金調達方法 | 補助金・助成金 |
| 資金調達方法の補足 | |
| 事業推進上の課題・工夫 | 産官学民での連携強化のため、市役所が中心となり大学・企業・参加市民と流動的にコミュニケーションをとることを重視し、企業のマーケティング、行政の健康講座との差別化をすることで、リビングラボとしての新たな価値創造を図った。 特に参加市民においては、新たな取り組みのためどのような事業なのか、どのように回を重ねていくのかを個別にリーフレットを渡しながら丁寧に説明をし、参加を促した。 |

担当者のコメント

行政独自の講演会や健康教室など、市民に健康を促す機会は従来から存在しますが、産官学民が同じ立場で同じゴールに向かって考える取組はこれまでにないオープンノベーションだと思います。

これまで一緒に取組んできた子育て中の母親（市民）は、家族の健康を考えるタイミングは多くありますが、子育てに追われ、あらためて健康について深く考えアウトプットしたり、大学・企業・行政のリソースをインプットする機会はほとんどありません。今回そのような機会を持ち、ライフスタイルの一部を変える参加者が多くいました。

また想像していなかった波及として、参加者同士のノウハウ共有がライフスタイルの変容に効果があるということもわかりました。子育て世代同士、同じ悩みを持つことも多く、等身大のアドバイスで課題解決がされたケースが多く、普段の会話ではない、ワークショップ内での発言であるからこそそのような解決がなされたと思います。

優良事例応募項目

| | |
|----------------|--|
| 取組のポイント（3つの視点） | <p>①地方創生SDGsの視点 東大和ライフスタイルラボは、市民が主体的に健全なライフスタイルを送るために、ノウハウを共有したり市民が本来ほしいサービスやモノを考え、生み出したり、より良く改善する活動である。 生活者である参加者が、主体的に健全へのアプローチを模索することが、持続的なライフスタイルの創出と地域への貢献、さらには産業へのヒントにつながり、地域課題の解決やSDGsの達成に資する取組である。</p> <p>②ステークホルダーとの連携 東大和市、大学、企業、市民といった多様なステークホルダーがそれぞれのリソースを共有し参画している。 参加者のワークショップ満足度は毎回高く、年々参加申込数も増加している。</p> <p>③モデル性・波及性 ワークショップのパッケージ化を検討中。</p> |
|----------------|--|